

「新川崎・創造のもりの機能更新に関する基本的な考え方
～新川崎・創造のもりを核とした『量子イノベーションパーク』の実現に向けて～」(案)【概要版】

- 令和5(2023)年8月、新川崎・創造のもり地区を次の100年を見据えた我が国の成長をけん引する拠点へと更に成長、発展させる機能更新等に向けて本市と慶應義塾が協力・連携協定を締結
- 本協定を基盤に、K² (ケイスクエア) タウンキャンパスを中心に、慶應義塾が目指す世界的な研究人材が集まる最先端研究開発拠点の構築と、本市が目指す「量子イノベーションパーク」の形成に連携して取り組む
- こうした取組の中で、本市と慶應義塾が機能更新に向けて、施設整備も含めた機能導入について幅広い検討を行い、その検討結果を踏まえ、「新川崎・創造のもりの機能更新に関する基本的な考え方(案)」としてお示しするもの
- この「基本的な考え方」で示す内容は、「新川崎・創造のもり計画」(平成11(1999)年2月)の実現に向けて、「川崎市総合計画」や、本市の産業振興の方向性を定める「かわさき産業振興プラン」など関連する計画と整合を図り、取組を推進する

1 取組の背景・新川崎・創造のもり地区の概況

1-1 国の取組や社会経済情勢、最先端技術の動向

- (1) 国の取組や社会経済情勢の動向
- 国際情勢の複雑化、社会経済構造の変化等に伴い、先端技術に関する経済安全保障の重要性が高まり、国においては、半導体等の最先端技術を重要物資に位置付け、**技術流出防止や安定供給確保の取組を推進**
 - 国内では、**Society5.0、脱炭素社会の実現に向け、イノベーション創出、最先端技術の社会実装**を加速させることを目指し、担い手となる**スタートアップへの積極的な投資**などが行われている状況

- (2) 量子コンピューティング技術の動向
- 量子コンピューターは、従来のコンピューター(古典コンピューター)では膨大な時間を要する**複雑で高度な計算を短時間で解くことを可能**とするコンピューターで、**電力消費が極めて小さいことも特徴**
 - 将来、材料開発、創薬、金融、AIなど**幅広い分野で活用され**、革新的な成果を生み出すと期待
 - 令和22(2040)年ごろには、量子コンピューターが**世界で最大8,500億ドルの価値を生むと予測**されており、各国が量子技術の研究開発やその拠点形成に大規模に投資するなど、**研究開発の国際競争が激化**
 - こうした中、**国は、量子技術に関する戦略を次々と策定し、世界をリードする量子技術の発展とこれらを支える人材育成に対して先導的に投資を推進**
 - 一方で、**国内における量子技術スタートアップは10数社程度と海外と比較して極めて少なく**、また、**量子分野の人材が圧倒的に不足**しており、人材育成が課題

1-2 新川崎地区の概況

- 新川崎地区は、右図のとおり、**旧国鉄の操車場跡地を中心とした33.2haに及ぶエリア**で、ものづくり・研究開発機能の強化を通じた産業の創出・育成及び市民利用機能の整備等を図る地区として都市計画を推進
- **研究開発型企業の立地が飛躍的に進み、本市を代表する産業集積地へと発展**し、同地区内では**住宅や交通インフラ等の整備も大幅に進展**
- その中で、先導的なプロジェクトとしてD地区において新川崎・創造のもり計画に基づき、**第1期事業としてのK²タウンキャンパスを整備以降、段階的な整備を行い、企業・大学等の集積が進展**
- **産学交流の拠点として官民連携により整備したAIRBICでは、大規模会議室や交流スペース、飲食スペース等を設置し、拠点内の企業・大学の交流連携を活性化**

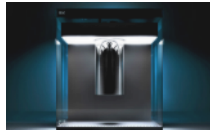


- 産業集積の進展に伴い、新川崎地区の大企業・スタートアップ企業・大学等によるネットワーク組織「**新川崎地区ネットワーク協議会**」を組成(令和5(2023)年11月現在、85社が参加)し、産学・産産連携による技術開発など**新川崎発のイノベーション創出に向けた活動も活発に展開**
- 新川崎・創造のもりでは、**令和3(2021)年7月のアジア初の量子コンピューター(27量子ビット)の実機「Kawasaki」の設置や半導体関連の先端企業の立地等の次世代コンピューティング技術が集積する特徴から、社会課題の解決や本市、我が国の経済成長への貢献が期待**
- **令和5(2023)年秋には、国の支援を受け、新川崎・創造のもりの量子コンピューターが127量子ビットへとアップグレード**

※127量子ビットの量子コンピューターはこれまで北米のみで稼働



K ² (ケイスクエア) タウンキャンパス 平成12(2000)年～	慶應義塾大学の約20の研究プロジェクトが入居
KBIC 平成15(2003)年～	ものづくり支援機能を備えた新産業支援施設
NANOBIIC 平成24(2012)年～	ナノ・マイクロ技術の産学官共同研究施設
AIRBIC 平成31(2019)年～	官民連携整備のオープンイノベーション拠点



IBM Quantum System One
「Kawasaki」
出典：日本アイ・ビー・エム(株)

「新川崎・創造のもりの機能更新に関する基本的な考え方
～新川崎・創造のもりを核とした『量子イノベーションパーク』の実現に向けて～」(案)【概要版】

1-3 新川崎・創造のもり地区の整備による、これまでの成果・効果

(1) 雇用創出効果

- 新川崎地区においては、新川崎・創造のもり(D地区)の整備以降、令和3(2021)年度時点において**92事業所、約2,600名の従業者が活動**
- 平成28(2016)年3月にパイオニア(株)の本社が移転したこと等により、一時的な減少はあるものの、平成21(2009)年度時点と比較して、**事業所数が約5倍、従業者数が約1.1倍まで発展**

	平成21(2009)年度		平成24(2012)年度		平成28(2016)年度		令和3(2021)年度	
	事業所数	従業者数	事業所数	従業者数	事業所数	従業者数	事業所数	従業者数
A～D地区	15	152	14	194	43	1,159	82	1,690
E、F地区	4	85	15	2,189	5	466	10	962
合計	19	237	29	2,383	48	1,625	92	2,652

データ出典：経済センサス調査

(2) スタートアップの創出・集積

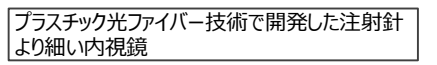
- **K²タウンキャンパス関連スタートアップ14社**の創出(モーションリブ、KAIフォトリクス等)
- 国内で注目される幅広い分野の**研究開発型スタートアップがKBICに集積**
＜主なスタートアップ＞
(株)イクシス(社会・産業インフラ向けロボット×AI)
(株)LexxPluss(レックスプラス)(自律走行搬送ロボット)
Heartseed(ハートシード)(株)(iPS細胞による心臓の再生医療)
(株)Luxonus(ルクソナス)(光超音波3Dイメージング画像診断装置)等

(3) 大学の研究成果が様々な企業との共同研究により社会実装を実現

- 遠隔で力触覚を再現し、医療や建設など幅広い分野で応用される**リアルハプティクス技術**
(慶應義塾大学 大西公平特任教授)
- 超高速通信を省電力かつリアルタイムに実現する世界初のエラーフリー**プラスチック光ファイバー技術**
(慶應義塾大学 小池康博教授)



慶應義塾(新川崎、殿町)、KISTEC、国際医療福祉大学等と取り組んでいるAMED事業における共同開発成果



(4) 次世代人材育成の取組

- **小中学生向け夏休み科学体験イベント**
「科学とあそびが幸せな一日」(平成21(2009)年～)
- **小中学生向けアントレプレナーシップ醸成プログラム**
かわさきジュニアベンチャースクール(令和3(2021)年～)
- **高校生向け量子コンピューター人材育成プログラム**
「Kawasaki Quantum Summer Camp」(令和4(2022)年～) Kawasaki Quantum Summer Camp



(5) 学会、各種セミナー、科学技術啓発イベント等の開催

- AIRBIC会議室・交流スペースを活用した、学会や入居企業等が主催するセミナー、市民向け科学技術啓発イベントの開催等、内外の研究者同士の情報交流、技術交流や市民への情報発信の場としての拠点の確立

1-4 新川崎・創造のもりのポテンシャルを活かした、更なる発展に向けた取組

新川崎・創造のもり計画に基づく、20年超にわたる取組により蓄積された、本地区のポテンシャル

- (1) 慶應義塾大学**K²タウンキャンパスの立地による充実した産学連携基盤**(大学発スタートアップが生まれる土壌や企業との活発な産学連携活動等)
- (2) 国内で注目される有望な**研究開発型スタートアップの集積**
- (3) 慶大、早大、東工大、東大からなる**「4大学ナノ・マイクロアプリケーションコンソーシアム」との連携協力による先端研究機器の企業への利用開放**
- (4) 新川崎地区の企業、大学等の集積、連携組織「**新川崎地区ネットワーク協議会**」の活動
- (5) 日本IBMやレゾナック等、**最先端コンピューティングをリードする大企業の中核研究拠点**の立地
- (6) **世界最高水準の商用量子コンピューターの実機**がNANOBIICにおいて稼働
- (7) 国の長期大型プログラム**「JST「共創の場形成支援プログラム(COI-NEXT)」(量子技術分野)」の採択**
- (8) **都心部からの好アクセス・羽田空港近接の立地優位性**

これまでの成果と、上記のポテンシャルを活かして、新川崎・創造のもり地区の産業拠点・研究開発拠点の機能をさらに強化していくために、次のような取組が求められている

- **川崎市においては、次世代コンピューティングの中核的技術で、同地区が世界の他の拠点と比較しても高い優位性を持つ量子コンピューティング技術について、新川崎・創造のもりが知識・技術・人材の集積を活かしたイノベーション創出拠点として発展し、「量子イノベーションパーク」の中核としての役割を果たすこと**
- **慶應義塾においては、優れた人材が集積し、K²タウンキャンパスから革新的な研究成果がこれまで以上に創出され、産業界で活躍する人材、起業家等を輩出するなど、世界的な研究拠点として発展させること**
- **新川崎・創造のもり全体として、KBIC、NANOBIIC、AIRBICそれぞれの施設が有する特徴、機能との接続性を高め、相乗効果を最大限発揮する取組を推進し、産学交流によるイノベーション創出拠点としての機能の強化を図ること**

令和5(2023)年8月には、本市と慶應義塾との間で、こうした視点での機能更新に向けた相互協力を目的に同地区の「機能更新等に関する協定」を締結



慶應義塾(伊藤塾長)との協定締結式

「新川崎・創造のもりの機能更新に関する基本的な考え方
～新川崎・創造のもりを核とした『量子イノベーションパーク』の実現に向けて～」（案）【概要版】

2 これまでの取組を踏まえた拠点機能強化の方向性

2-1 川崎市が目指す量子イノベーションパークの推進

【量子イノベーションパークとは】

量子イノベーションパークとは、量子技術を核としたイノベーションの創出に向けた多様な研究・実証・教育プロジェクトが、新川崎・創造のもりを中核として、様々な企業・研究機関等において市内全域で展開される姿を言い、それぞれのプロジェクトが相互に連携、影響を及ぼしあうことで、世界の量子イノベーションを先導するエコシステムが形成されることを目指します。

【量子イノベーションパークで展開されているプロジェクトのイメージ】

- 産学官の多様なプレイヤーが、それぞれの強みを活かして連携を図りながら、量子コンピューターの実機開発や、ソフトウェア、量子通信等の関連技術、量子コンピューティングの周辺機器等の開発を目指すプロジェクト
- 量子コンピューターを活用し、企業間連携を通じた創業や素材開発、金融、モビリティ等の分野での実用化を目指すプロジェクト
- 量子ネイティブ人材の育成や、量子産業人材の育成など、様々な属性、レベルに対応した教育プログラムの開発や、教育事業の実践プロジェクト

【量子イノベーションパークの実現による効果】

これまでにない環境材料の開発による脱炭素化、病気の早期診断・治療による健康長寿社会の実現、生産年齢人口が減少する中での生産性向上などが期待され、カーボンニュートラル社会の実現やSDGsなど複雑な社会課題の解決等に大きく貢献

次のような取組を通じて、量子イノベーションパークの実現を目指す

- (1) 市内外に立地する量子コンピューティング企業や、JST「共創の場形成支援プログラム（COI-NEXT）」に参画する大学や研究機関等と連携し、量子技術の早期の社会実装に向けた研究開発を促進
- (2) 企業や研究者が量子技術に関する研究開発が行える、量子コンピューターの利用環境を構築
- (3) 量子技術スタートアップ企業の集積を図るとともに、量子技術関連のビジネスアイデアの育成や資金調達に関する支援を行い、新事業・新ビジネスの創出を後押し
- (4) 市域の社会課題、行政課題の解決に量子技術を活用する実証フィールドの提供
- (5) 量子産業の将来の担い手である若年層を中心に量子技術の早期教育を行い、量子ネイティブ人材を育成

2-2 新川崎・創造のもりにおける量子イノベーションパーク実現に向けた視点

2-1の実現に向けて、新川崎・創造のもりでは、次のような機能導入に向けた視点が必要

- (1) 核となる量子技術に加え、AI・Beyond5G等最先端のコンピューティング技術とその基盤となる半導体等の最先端テクノロジーの「知」と「人材」の集積地を形成
- (2) 量子技術やAI、先端半導体等の研究開発では、世界トップレベルの人材（研究者・技術者）が不可欠であるため、国内外から高度人材を呼び込む世界最高水準の国際的な研究開発拠点を形成
- (3) 量子コンピューターの実用化には長い期間を要すると見込まれており、量子と古典の融合技術やソフトウェア、通信、センシング、セキュリティ分野など関連産業の早期の社会実装化を意識した拠点の形成
- (4) 企業や大学の枠組みを越えて他者の技術や知識を活用するオープンイノベーションと、技術の流出防止や経済安全保障を意識したクローズ戦略を組み合わせたオープン・クローズ戦略を効果的に活用できる拠点の形成
- (5) スタートアップ、大企業、大学、研究機関など多種多様なプレイヤーが集い、異分野の研究者・技術者が交流し、アイデアをぶつけあい、イノベーションが生み出される交流・コミュニティ環境を構築
- (6) イノベーションの源泉となる研究・事業アイデアの創出を促進し、リラックスとリフレッシュができる自然と調和した研究環境の構築

未来社会における量子技術によって創出される価値（量子技術活用イメージ）



「新川崎・創造のもりの機能更新に関する基本的な考え方 ～新川崎・創造のもりを核とした『量子イノベーションパーク』の実現に向けて～」(案)【概要版】

2-3 慶應義塾が目指す世界に伍する研究開発拠点の形成

慶應義塾はK²タウンキャンパスにおいて、産学連携により最先端の研究開発に取り組み、新技術の創出や社会課題の解決につなげてきた。平成12(2000)年の開設当初から次々と成果が生まれる一方で、開設から20年以上が経過し、研究環境・インフラの老朽化、拡張性や交流促進機能の不足等の課題が顕在化している。

こうした課題や脱炭素化、DXの加速化などの社会情勢、AIなどの最先端技術の動向、海外の研究開発拠点に対する競争性や相互連携の確保等を踏まえ、K²タウンキャンパスを世界トップレベルの研究開発拠点として更に発展させるため、慶應義塾では、次のような拠点形成が必要と考えている。

- (1) 次世代コンピューティング技術をはじめ、Society5.0の実現や社会課題の解決に貢献する世界最高水準の研究開発プロジェクトが複数展開している研究開発拠点
- (2) 大学の研究開発成果・技術シーズの社会実装、事業化が加速する研究開発拠点
- (3) 様々な分野、ステージ（研究段階）の研究を受け入れる学際的、発展性のある拠点
- (4) 新川崎・創造のもりエリアの玄関口として自然と調和・共生した環境において、企業や大学の連携、市民との交流のエンタランスとなる拠点
- (5) 世界トップレベルの研究者や多様な人材がこのエリアに惹きつけられ、根付く、魅力的な拠点
- (6) 最先端の科学技術に触れ、学ぶ機会が提供され、子どもたちの夢を育み、次世代の科学技術をリードする人材を次々に輩出する拠点

2-4 世界的な研究開発拠点に向けた機能更新の視点

慶應義塾は、世界に伍する研究開発拠点の形成に向けて、次の視点でK²タウンキャンパスの機能更新を行いたいと考えている。

機能更新に向けた視点

- (1) タウンキャンパスとしての大学の研究活動を促進する環境構築に加え、研究成果の社会実装を加速するための大企業・スタートアップ等との連携を促進する環境を構築
- (2) 研究成果の実証研究が実施しやすいハード（施設・設備）・ソフト（コーディネート）環境を構築
- (3) 研究開発の進展、将来性を見越した拡張性、柔軟性を有する研究環境を構築
- (4) KBIC等の周辺施設との交流や、さいわいふるさと公園との一体性、回遊性を促進する導線の整備、施設配置、機能導入
- (5) 国際的・多様な人材が研究活動に取り組む魅力的な研究開発環境の整備に加え、研究者本人やその家族の生活環境の適切なサポート体制を構築
- (6) 学際的・体系的に科学技術を学び、体験できる機会の定期的な提供や、先端的な科学技術・研究活動の見える化、触れられる化

【社会課題の解決に貢献する最先端の研究が、自然と調和した環境で活発に展開される研究開発拠点のイメージ】



出典：沖縄科学技術大学院大学

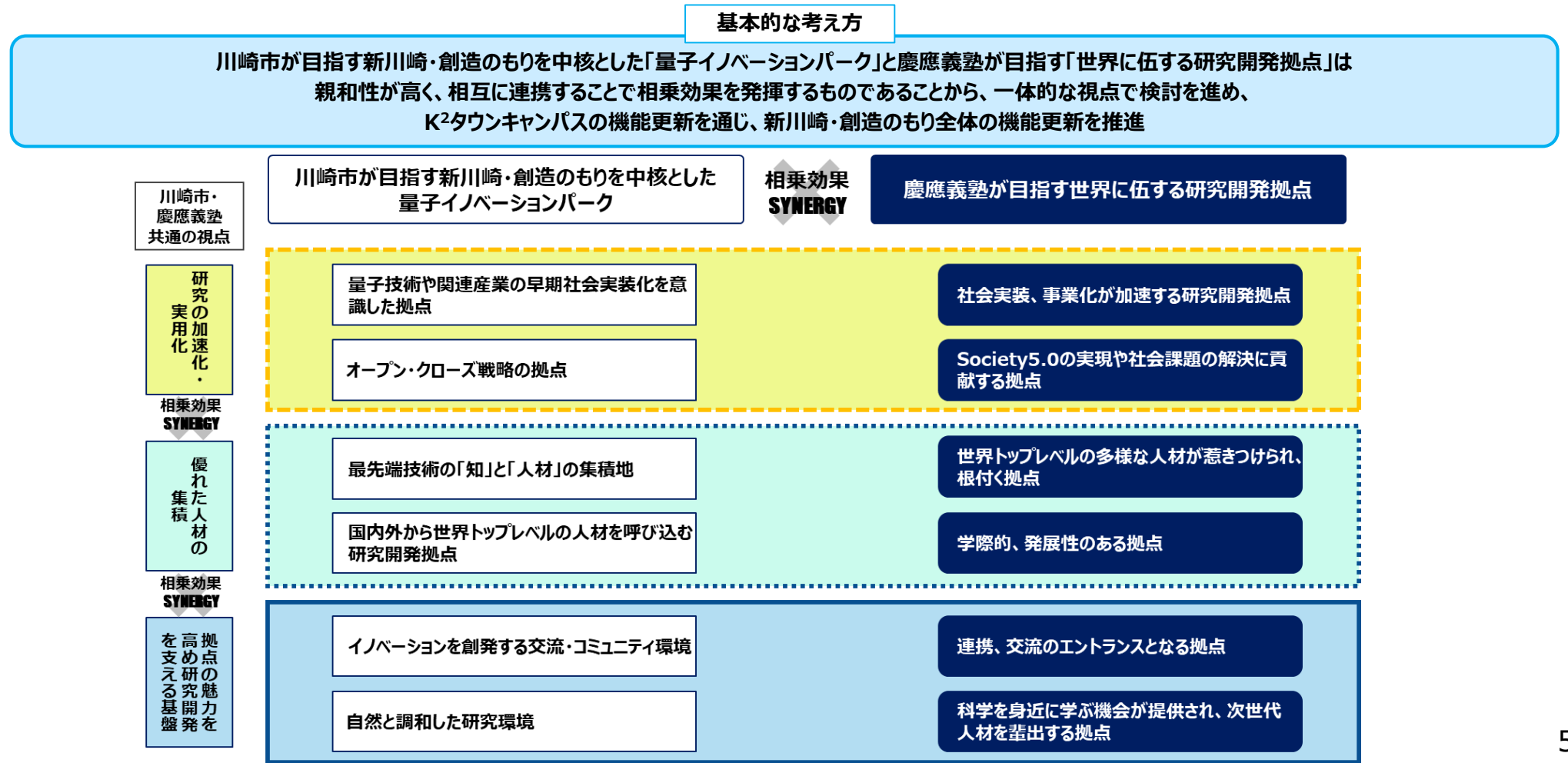
「新川崎・創造のもりの機能更新に関する基本的な考え方
～新川崎・創造のもりを核とした『量子イノベーションパーク』の実現に向けて～」（案）【概要版】

2-5 本市と慶應義塾の視点を踏まえた創造のもりの機能更新に向けて

- 2-1～2-4までを踏まえ、新川崎・創造のもり地区を次の100年を見据えた我が国の成長をけん引する科学技術振興と新産業創造の拠点へと成長、発展させるため、本地区の機能更新を図ることが必要
- このため、慶應義塾をはじめとする関係機関等と、今後の新川崎・創造のもりの機能更新に向けた検討を行う

3 新川崎・創造のもりの機能更新に関する基本的な考え方

「新川崎・創造のもりにおける量子イノベーションパーク」と「慶應義塾が目指す世界的な研究開発拠点」の実現に向けた、新川崎・創造のもりの機能更新に関する基本的な考え方は、次のとおりとする



「新川崎・創造のもりの機能更新に関する基本的な考え方
～新川崎・創造のもりを核とした『量子イノベーションパーク』の実現に向けて～」（案）【概要版】

4 新川崎・創造のもりの機能更新において必要と考えられる機能

「3 新川崎・創造のもりの機能更新に関する基本的な考え方」を踏まえ、新川崎・創造のもりの機能更新においては次の機能が必要と考えられる

視点	必要と考えられる機能	導入に向けた配慮事項
研究の加速化・実用化	(1) 先端企業・大学等が集積し、研究開発を加速する良好な研究環境機能 ○ 様々な研究ニーズに対応可能な柔軟性、拡張性を有する研究スペース ○ 大企業や中小企業、スタートアップ、大学など多様な主体が集い、連携しやすい研究スペース	● 研究の効率性、拡張性、オープンイノベーションを実現するため、1フロアの床面積を最大限大きく確保した、 大空間ラボスペース の整備 ● 多様な研究・プロジェクトに対応できる 柔軟性、可変性のあるラボ の整備 ● 大学のほか、大企業から中小・スタートアップ企業など、様々な研究段階、規模、成長段階の企業等を受け入れられる バリエーションに富んだ面積のラボ の整備 ● 電源など 安定的で信頼性の高い研究・事業インフラ の確保
	(2) 経済安全保障に配慮した研究を支えるセキュリティ機能 ○ セキュリティ対策を念頭に置いた研究スペースと交流スペース等の配置、導線 ○ 最高レベルのネットワークセキュリティ対策	● ラボ機能と研究支援機能は、別棟にするなど、 日常動線を適切に分離し、セキュリティを確保 ● 一部のラボスペースやサーバールームへの物理的なアクセスを制限できる セキュリティラインを設定 するなど、研究成果や機密情報を適切に保護
優れた人材の集積	(3) オープンイノベーションを活性化する交流・コミュニティ機能 ○ 入居企業同士や来訪者が自由に交流するためのスペースや交流を支援する体制、イベント等	● 入居者や来訪者が自由に交流する ラウンジやコミュニケーションスペースを動線の結節点となる施設の低層部に配置 するなど、日常的な交流や異分野とのコラボレーションを創発 ● カンファレンススペースを低層部に配置 するなど、学会、セミナー、技術発表会、地域との交流等の多様な会議、情報発信への対応に配慮
	(4) 高度人材を惹きつけ、国内外から優れた人材を誘引する機能 ○ 先端的で魅力ある研究開発プロジェクト ○ 研究者とその家族が、研究と生活に快適に対応できる環境	● 国内外の優れた研究者を惹きつけ、集積させる、 魅力ある大型プロジェクトや中核企業等の立地誘導 ● 企業、大学等の海外からの研究者等が研究に専念し、円滑に生活環境を構築するため、 研究者やその家族の一定期間の滞在環境、サポート環境 の検討 ● エリア全体のサインの多言語化、ユニバーサルデザインの視点でのエリアごとの配色、サイン計画など、 誰もがアクセスしやすく、利用しやすい環境 の整備 ● デジタル技術の活用、安全で快適な通信環境 の整備など、国内外の様々な人との繋がり生み出し、柔軟な働き方・研究活動に対応
研究開発を支える魅力を高める基盤	(5) 次代を担う子どもたちが科学技術への夢を育む場など、多世代の人材を育成する機能 ○ 「科学とあそび幸せな一日」や「Quantum Summer Camp」等の更なる充実 ○ 研究開発等の実践の場を活用した産業人材の育成	● 研究成果を来訪者に分かりやすく紹介する ショーケース機能 の検討 ● ラボの一部をガラス張りにするなど、研究活動に支障のない範囲で日常の活動の見える化を工夫し、 市民や地域に開かれ、子どもたちの科学技術への夢を育む環境 の整備
	(6) 地域に開かれた憩いの空間 ○ 隣接する公園と一体性があり、地域住民にも開放的で緑豊かな空間 ○ カフェなど、緑地空間を楽しみ、憩いの場となる空間	● さいわいふるさと公園との一体的な緑地 の配置や、 自然との調和に配慮した明るい安全な緑地環境 の構築、 回遊性の向上に向けた動線 の整備 ● 新川崎・創造のもりの エントランスにふさわしい賑わいと憩いの空間 の形成 ● 緑地に面した 低層部へのカフェや売店、オープンスペースの整備 など地域に開かれた機能の配置

「新川崎・創造のもりの機能更新に関する基本的な考え方
～新川崎・創造のもりを核とした『量子イノベーションパーク』の実現に向けて～」(案)【概要版】

5 新川崎・創造のもりの機能更新の検討方針

- 将来にわたって発展性・持続性・拡張性を確保する視点での機能の検討等を行い、**機能導入にあたっては、施設整備も含め、これまでの新川崎・創造のもり事業における民間活用の事例**なども踏まえ、適切な手法を幅広く検討
- **経済安全保障の観点から高度なセキュリティを確保しつつ、企業・大学等の研究者間、地域の市民の方との交流が確保されるプランを検討**
- このエリアに集う**研究者や地域の住民が、憩い、語らい、交流することを目指し、研究機能と緑地・公園機能との一体性、回遊性を目指したプラン**を検討
- 上記のために必要な手続等を適切かつ迅速に実施

6 土地利用の方向性

6-1 敷地条件の整理

(1) 検討エリアの状況

- 検討エリアの中心であるK²タウンキャンパスの敷地は、敷地面積が約16,407㎡で、川崎市が所有する土地に事業用借地権を設定し、川崎市から（一財）川崎市まちづくり公社に貸し付け（現在の契約は令和2（2020）年4月から令和12（2030）年3月までの10年間）
- 当該敷地に川崎市まちづくり公社が鉄骨造2階建ての建物を5棟（K・E・I・Oの研究棟4棟、厚生棟1棟）と駐輪場・車庫を整備し、公社が施設の維持管理を行っており、これらの施設に慶應義塾が賃料を支払い、入居
- 研究棟4棟の中では、現在、19の研究プロジェクトが展開
- K²タウンキャンパスは平成12（2000）年の開設当初、暫定的な利用計画のもと建設されていることから、建物については容積率等を十分に活かしていない
- 慶應義塾大学の研究室中心の構成となっており、既存の5棟では、4で示した機能の充足は困難

K²タウンキャンパスの各棟の面積 単位：㎡

	K棟	E棟	I棟	O棟	厚生棟	車庫	合計
延床面積	1,388	1,388	1,171	1,388	713	38	6,086
研究居室	1,056	1,043	775	736	415	-	4,025

K²タウンキャンパス各棟の配置状況

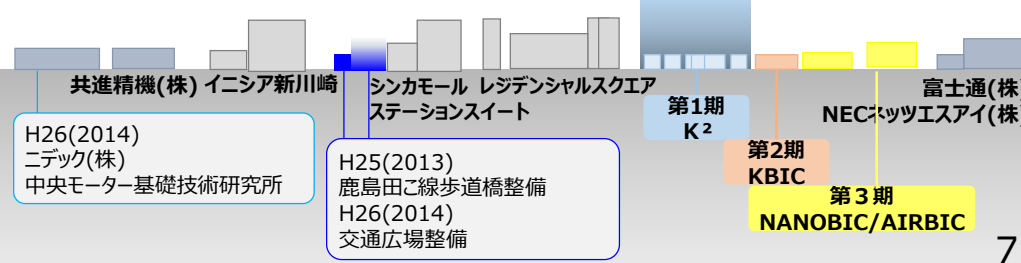


(2) 検討エリアの敷地条件

検討エリアは新川崎地区地区計画が定められており、土地利用に当たっては、高さ制限や緑化率の設定等の基準が別途規定されていることから、土地利用にあたってはこれらに留意が必要

項目	内容	新川崎地区地区計画による条件
所在地	川崎市幸区新川崎7	
用途地域	準工業地域	学校・図書館（その他これらに類するもの）、事務所、集会所、研究所、倉庫（倉庫業を営むものを除く）、公衆便所等公益上必要な建築物、その他これらに付属するもの以外は建築不可
容積率	200%	300%
建ぺい率	60%	50%（緩和第1項により最大70%まで可）
高さ規制	第3種高度地区：最高高さ20m（北側斜線10m+1.25/1.0）	建物高さ45m以下
緑化率	—	敷地面積の25%以上

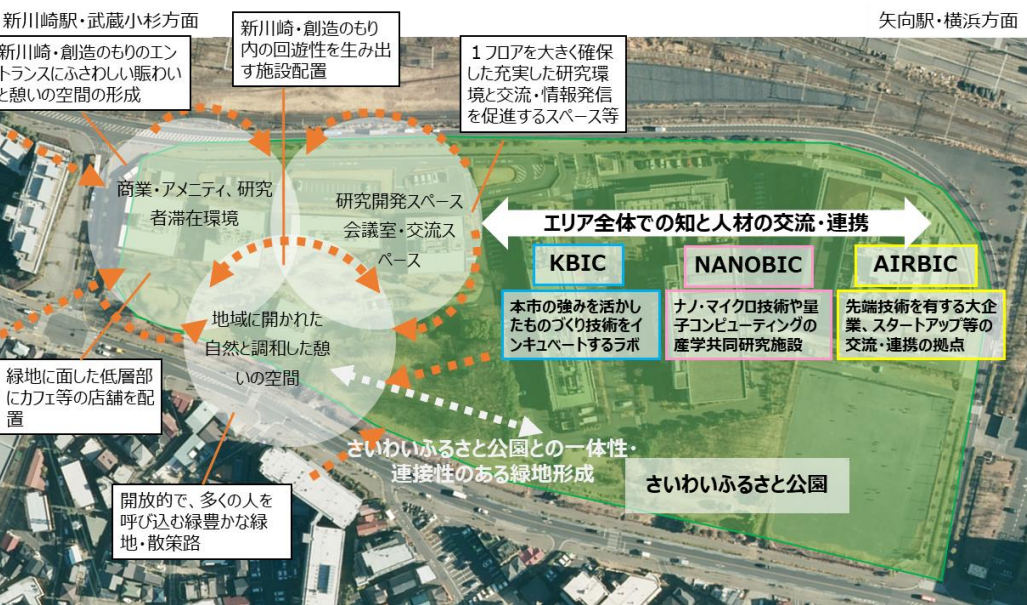
(3) 周辺環境



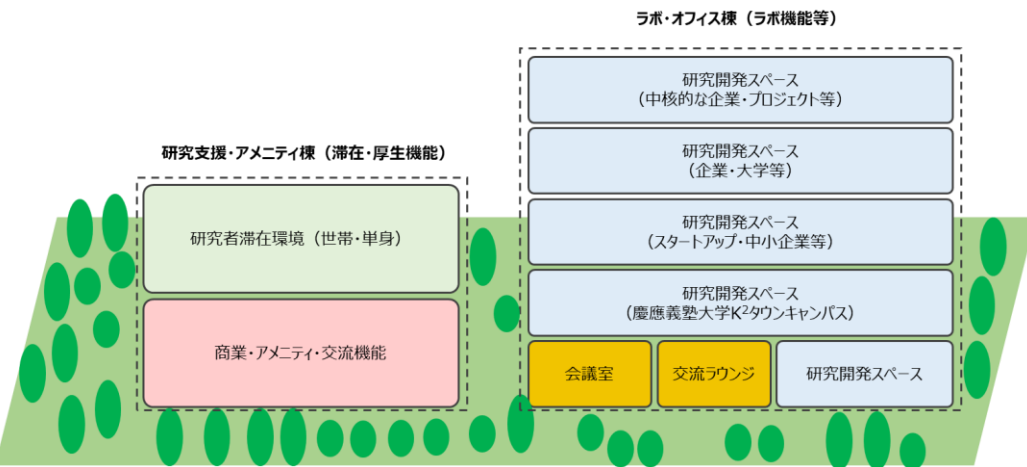
「新川崎・創造のモリの機能更新に関する基本的な考え方
～新川崎・創造のモリを核とした『量子イノベーションパーク』の実現に向けて～」(案)【概要版】

6-2 機能導入の計画イメージ

(1) 機能の配置イメージ (平面)



(2) 機能の配置イメージ (立面)



※機能の配置をイメージ化したものであり、建物の規模や階数を表しているものではありません

7 期待される効果

新川崎・創造のモリの機能更新により、我が国の成長・発展をけん引する世界最高水準の研究開発拠点が形成されるとともに、本市の産業、教育、まちづくり等において、次のような効果が期待される

- (1) 地域産業の活性化
 - 量子技術等の先端技術の研究開発における、市内の製造業、装置産業との連携や、IT関連企業とのソフトウェア、アプリケーション開発での協業による**企業の技術力、開発力の向上**
 - 研究開発成果を用いた新産業、新ビジネスの創出による**地域産業の発展・活性化**
- (2) 教育環境の向上
 - 集積する大学、企業等と地域が連携した教育機会が創出され、**科学技術を身近に感じ、学ぶことができる教育環境の形成**
 - 早期から量子技術を使いこなす高い知識・技能を有する**量子ネイティブ人材の育成・輩出**
- (3) 市民生活の利便性の向上
 - 新たな技術を活用して**地域課題の解決**に繋げることにより、**利便性の高い地域社会の形成**
 - 量子技術を用いた地域課題の解決への取組を全国に先駆けて実施**（災害発生時の最適な避難経路導出、地域のエネルギーマネジメントシステムの構築や地域の交通制御等による環境負荷の軽減など）
- (4) 多様性に富む国際色豊かなまちづくり
 - 外国人研究者やその家族が地域に根付き、交流を深めることによる**豊かな多様性（ダイバーシティ）と包摂性（インクルージョン）を有する地域コミュニティの形成**
 - 外国人研究者が市内の学校と連携することで、**子どもたちの国際的な人材育成**にも寄与
- (5) 都市ブランドの向上とシビックプライドの醸成
 - 量子技術等、最先端の研究開発の実用化に向けた取組により、**イノベーション推進都市としての認知度と都市ブランドの向上**
 - 先端的な研究開発や科学教育等の活動を通じた**市民のシビックプライドの醸成**
- (6) 雇用創出
 - 量子技術をはじめとする新たな企業等の立地に伴う**雇用創出効果**
 - スタートアップ企業は雇用吸収力が高いため、雇用創出において高い効果
- (7) その他
 - 新たな施設を整備した場合には、建設波及効果、施設操業に伴う効果、就業者・訪問者の消費効果等の**経済波及効果**
 - 新たな企業の立地やこれに伴う設備導入、就業者の増加によって、個人市民税、法人市民税、固定資産税、都市計画税、事業所税等の**税源涵養**

「新川崎・創造のモリ」の機能更新に関する基本的な考え方
～新川崎・創造のモリを核とした『量子イノベーションパーク』の実現に向けて～」（案）【概要版】

8 機能更新を実現する手法

- 新川崎・創造のモリの機能更新においては、良好な研究開発環境や強固なセキュリティ環境などを、高い水準で導入することが求められることから、民間の柔軟な発想や豊富なノウハウの有効な活用が重要
- あわせて、本市の財政負担や、施設に入居する大学・企業等の負担の軽減についても最大限の効果が発揮される仕組みの構築が求められることから、民間活用（川崎版PPP）推進方針に基づき、次の事業手法等を中心に、それぞれの手法を効果的に組み合わせるなど、最も適した手法の導入に向けて、次年度に策定する基本計画において検討

＜本市での研究開発拠点の整備事例＞

(1) 従来方式

- 市が施設の設計、建設等の整備を行い、維持管理を直営又は指定管理者に委ねる手法
事例：KBIC、NANOBIC、川崎市産業振興会館など



KBIC



NANOBIC

(2) 定期借地方式

- 借地借家法に基づく借地契約を締結し、市は土地を民間事業者に一定期間貸し付けて、地代収入を見込み、民間事業者が施設を建設して保有し、管理運営を行う手法
事例：K²タウンキャンパス、AIRBIC、川崎生命科学・環境研究センター（LiSE）など



AIRBIC



LiSE

(3) PFI（Private Finance Initiative）

- 施設の設計、建設から維持管理・運営までを一括して民間事業者委ねることによって、民間の資金とノウハウを積極的に活用し、効率的かつ効果的な公共サービスの提供を図る手法
事例：カルッツかわさき、はるひ野小中学校、多摩スポーツセンターなど

(4) 公有地売却方式

- 「まちづくりの観点での活用」や「政策目的で官民連携による公共の福祉に資する利用」が必要な土地について、条件をつけた売払いや土地利用計画を審査して買受者を選定する方式

9 今後の具体的な取組と事業スケジュール

9-1 機能更新の実現に向けた具体的な取組（予定）

- 本市と慶應義塾との役割分担を明確化し、民間活用に向けた事業者との対話を行いながら、着実な事業推進に向けた事業手法や本市の財政負担の軽減等について検討
- 必要機能の誘導・導入や、地域に開かれた空間の形成等に必要となる施設の配置プラン・適正規模の整理を行いながら、その実現に必要な都市計画等の変更について検討
- 現在のK²タウンキャンパスの運営スキームの整理（川崎市まちづくり公社との調整）を行い、今後の詳細な事業スケジュールを設定

9-2 事業スケジュール

- 9-1の取組を次年度の基本計画の策定において実施
- 令和6(2024)年度 基本計画の策定
- 令和6(2024)年度以降 基本計画に基づき事業推進



【具体的な取組】

- 本市と慶應義塾との役割分担の明確化
- 事業手法の検討
- 民間活用による本市の財政負担の軽減等の検討
- 機能の誘導・導入に向けて必要となる施設の配置プラン・規模等の検討
- 必要となる都市計画等の変更についての検討
- 現在のK²タウンキャンパスの運営スキームの整理（川崎市まちづくり公社との調整）
- 詳細な事業スケジュールの設定